

第1回ミュージアム・エデュケーター研修 2日目  
 学校教育との連携  
 学校と美術館との連携－岡山県立美術館の場合－



1. 連携のはじまり
2. 連携の本格化にむけて
  - 時代の要請(平成14年～)
  - 学校 ⇄ 美術館(平成16年～)
  - 恒常的な組織化に向けて(平成21年～)
3. 成果&現状と課題



岡山県立美術館・主任学芸員 岡本裕子(教育普及担当)

<岡山県美の10年間の歩み>

小・中学生向けの鑑賞教室の開催    学校団体対応プログラムの開発    中高生のための新書版の発行



鑑賞教室事前教員向け研修会の実施



国吉康雄教材開発研究会



学校と美術館の連携プロジェクト委員会



学校と美術館の連携委員会



学校出前講座



## 1. 連携のはじまり —美術館鑑賞教室を—

90年代前半 → 日本でもMOMAで開発された鑑賞法(VT)が広まる

県美 → いち早く導入(美術館学芸員)

平成10年～11年

### 「夏休み中学生鑑賞教室」実施

中教研美術部会岡山支部有志

岡山大学教育学部の有志

県美ボラ有志

主催: 県美

後援: 岡山県教育委員会岡山県中学校校長会

「連携」の意識・・・?

—恒常的な組織化を図るために……—

—教職員のための(幼・小・中・高)夜間開館—

### ティーチャーズ・デイの実施

参加者の減少・目的が曖昧

→ ティーチャーズ・デイが消滅

中学校・美術館ボラ・大学の連携

→ 次第に困難になった

いろいろな意味で、時期尚早……

学校との組織的な連携はいったん解消

でも

教育普及プログラムは残った

2. 連携の本格化に向けて  
○時代の要請(平成14年～)

諸々の諸事情

◇平成14年前後、総合的な学習の時間

◇どこの美術館にも共通する  
美術館の中に教育普及が位置づけられる時代の到来！

- ・開かれた美術館時代の流れ
- ・未来の教育普及的観点からの学校団体受け入れプログラムの開発

☆学校が  
「美術館を学習の場」として考え始めた？

☆県美の場合  
学校団体利用数 激増！  
学校に

平成13年 57団体  
↓  
平成14年 105団体

平成17年 103団体  
↓  
平成18年 143団体



が  
行き渡った？

○出前講座(伝工)平成18年～

## どうやったら 美術館を楽しんでもらえる？！

1. 作品と対峙するためにVisual Thinkingをベースにしたプログラム作りに取り組む
2. VTをより効果的にするためのアートゲームの開発
3. 学校のニーズに合わせた様々な受け入れ方法の展開

## 団体観覧プログラム

A: 自由見学コース

B: グループ案内コース

C: 対話型鑑賞体験コース

D: 特別展解説コース

※現在のプログラム

## A: 自由見学コース

○ボランティアによるマナーガイダンス・美術館の概要説明(15分程度)のあと、自由に鑑賞を行うコース



## B:グループ案内コース

○岡山の美術展(当館の作品のテーマ展)をグループごとにボランティアが会話や説明を交えながら案内するコース(40分程)



## C:対話型鑑賞体験コース

(VT<ヴィジュアル・シンキング>スタッフ)

○岡山の美術展(所蔵作品展)の作品を対話型鑑賞で一緒にみるコース(50分程度)



**作品そのものを自分のものとして“みる”コース**

★アートゲームつきだとプラス40分程度)



## D特別展解説コース (展覧会担当学芸員)

- 特別展担当学芸員が簡単な説明(15分程度)を行った後、自由に鑑賞するコース



## ○学校 ⇄ 美術館 (平成16年～)

- 平成16年度 小学校図工部会  
鑑賞ガイド&アート・カードを  
県内小中高等学校に配布  
ボランティア・スタッフ研修  
の継続的实施  
雄教材開発研究会 助成: 福武文化振興財団  
MITEおかやま 開催  
“学校と美術館の連携”の恒常的な構築を!
- 平成21年度 学校と美術館の連携プロジェクト委員会  
助成: 福武文化振興財団&岡山大学ユネスコチェア  
“学校と美術館の”  
館内の理解を得るための手続き諸々  
報告書・監視員&ボランティアへの広報・学芸員への  
連絡&協力依頼
- 平成22年度 学校と美術館の連携協議会  
「ハブ教員(通称:ミュージアム特使)養成」事業  
岡山県美術館連絡協議会  
教育普及だけではできません
- 平成23年度 学校と美術館の連携員会 岡山県緊急雇用創出事業  
「グッド・スタート・ミュージアム事業」

平成16年小学校図工部会との出会い  
～小学校鑑賞教室～  
＜鑑賞教室の立ち上げ＞  
第50回（平成21年）をむかえる美術教室

継続は力なり  
盤石織



後楽園



池田動物園



西大寺観音院

実施会場の縮小… 4会場から3会場へ  
活動のマンネリ化

美術教室の内容を見直そう！

## 鑑賞教室の目的

- 史跡・名所の写生以外の体験を
  - 夏休みに普段の授業ではできない体験を
  - 岡山市の地域資源を活用できる体験を
  - 教師が指導者として子どもたちに関われる活動を
  - 子どもたちが楽しく取り組める活動を
- 夏休みに岡山県立美術館を使って鑑賞活動はできないか？

そういえば…

- 指導要領に美術館などを活用した鑑賞活動が取り上げられているが実践が少ない。
- 子どもたちが本物の作品と出会う機会があまりない。

## 立ち上げまでの経緯

平成15年度（第1回児童夏休み鑑賞教室開催2年前）

- 新プロジェクト発足  
メンバー…会長・副会長・事務局・各局の局長、局次長
- 岡山県立美術館の教育普及担当者を訪ねる。
- 教師が指導する美術館での鑑賞についてどのような方法があるか尋ねる。
- 美術館で行われていた鑑賞のワークショップの見学を行う。
- ◆ 教育普及担当者やボランティアスタッフの方と鑑賞活動について具体的な方向を話し合う。

## 立ち上げまでの経緯

### 対話型鑑賞を行おう！

平成16年度（第1回児童夏休み鑑賞教室開催1年前）

- 平成17年度に第1回鑑賞教室を実施しよう。
- 美術教室を参考に役割分担やタイムテーブルを考える  
しかし…

- 子どもたちは、集まるのだろうか？
- 教師が指導することができるのだろうか？
- 美術館の施設を使ってスムーズに運営ができるのだろうか？
- 今の組織のままでは継続は難しいだろう。

第1回鑑賞教室が成功したら、続けていこう！

## 平成17～18年度 国吉康雄教材開発研究会

助成：福武文化振興財団

福武コレクション(国吉康雄)が一括して県美に寄託  
若い世代への知らしめたい  
国吉康雄展開催  
教材開発研究会



平成17年度「教室でもできる あなたでもできる 美術鑑賞ガイド」(中学校版)

中学校教育研究会美術部会岡山支部鑑賞グループのメンバーを中心に  
鑑賞教育に興味を持っている教員と美術館学芸員、大学研究者

平成18年度「図工でも使える 学級でも使える 鑑賞ガイドーアート・ゲーム編ー」  
(小学校版)

前年度の中学校教員＋鑑賞教室に関わっている小学校教員と美術館学  
芸員

県内小中高等学校に配布・・・しかし、配布しただけでは・・・

**“学校と美術館の連携”の恒常的な構築を！**

## ○恒常的な組織化に向けて(平成21年～)

### 平成21年度 学校と美術館の連携プロジェクト委員会

助成：福武文化振興財団&岡山大学ユネスコチェア

平成19年度～20年度の連携の停滞(様々な事情から)打破！

「“点”の連携を“線・面”の連携」につなげるインターフェイスの役  
割

連携に役立つツールの開発

連携を継続していくための恒常的組織作りの研究

国吉康雄教材開発研究会のメンバーをベースに連携プロジェク  
ト委員会を構成

**“学校と美術館の”インターフェイス”としての役割を担う組織へ  
！**

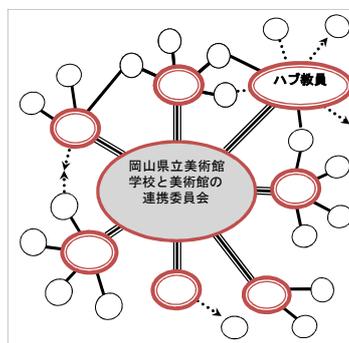
## 美術館の学校化・学校の美術館化

打開するには・・・

さらなる協働を通して、  
互いの存在意義、教育活動の目的や対象、  
それぞれの担うべきミッションを理解すること

平成22年度 学校と美術館の連携委員会 助成：文化庁・美術館連絡協議会  
「ハブ教員（通称：ミュージアム特使）養成」事業

学校と美術館の連携委員会&ハブ教員（ミュージアム特使）



□学校と美術館の連携委員会

- ・ <会長>
- ・ 鍵岡 正謹（岡山県立美術館館長）
- ・ <副会長>
- ・ 松田 和子
- ・ （岡山市立意山中学校 校長）
- ・ （岡山県中学校教育研究会岡山支部美術部会 部会長）
- ・ （岡山県中学校教育研究会美術部会 部会長）
- ・ 松本 玲子
- ・ （岡山市立建部小学校 校長）
- ・ （岡山県小学校教育研究会岡山支部図画工作部会 顧問）
- ・ （岡山県小学校教育研究会図画工作部会 部会長）
- ・ 守安 敬（岡山県立美術館副館長）
- ・ <委員>
- ・ 赤木里香子（岡山大学大学院教育学研究科准教授）
- ・ 山口健二（岡山大学大学院教育学研究科准教授）
- ・ 武本賢治（岡山市立福南中学校教諭）
- ・ 平田朝一（和気町立和気中学校教諭）
- ・ 森 弥生（山陽学園短期大学非常勤講師）
- ・ 村元修子（岡山市立津島小学校教諭）
- ・ 山崎博之（岡山市立太伯小学校教諭）
- ・ 妹尾克己（岡山県立美術館学芸課長）
- ・ 中村麻里子（岡山県立美術館主任学芸員）
- ・ 福富幸（岡山県立美術館学芸員）
- ・ 岡本裕子（岡山県立美術館主任学芸員）
- ・ <事務局>
- ・ 事務局長
- ・ 中平 知明（岡山県立美術館総務課長）
- ・ 書記
- ・ 高嶋雄一郎（岡山県立美術館学芸員）
- ・ 会計
- ・ 井上麻衣子（岡山県立美術館主事）
- ・ 野瀬 時正（岡山県立美術館主事）

□岡山県立美術館 美術館と学校の連携活性化事業

- ・ ミュージアム特使（ハブ教員）
- ・ <小学校>
- ・ 赤木美貴恵（新見市立田治部小学校教諭）
- ・ 今尾恵（玉野市立大崎小学校教諭）
- ・ 岡根誠（倉敷市立茶屋町小学校教諭）
- ・ 岡村彰紀（和気町立山田小学校教諭）
- ・ 辻竜（岡山大学教育学部附属小学校教諭）
- ・ 信清亜希子（吉備中央町立大和小学校教諭）
- ・ 森泰久（真庭市立中津井小学校教諭）
- ・ <中学校>
- ・ 井口敬（倉敷市立真備中学校教諭）
- ・ 福田尚久（真庭市立落合中学校教諭）
- ・ 佐藤祝也（高梁市立高梁中学校教諭）
- ・ 谷口しおり（浅口市立鶴方中学校教諭）
- ・ 谷元裕治（津山市立津山西中学校教諭）
- ・ 長崎陽日（岡山市立足守中学校教諭）
- ・ 土師匡弘（赤磐市立高陽中学校教諭）
- ・ 藤本淳平（岡山市立福浜中学校教諭）
- ・ ※岡山県内各地区で鑑賞教育に興味を持ち実践している
- ・ ※各地域で図工・美術の研究会等でリーダー的存在である

ハブ教員（ミュージアム特使）とは

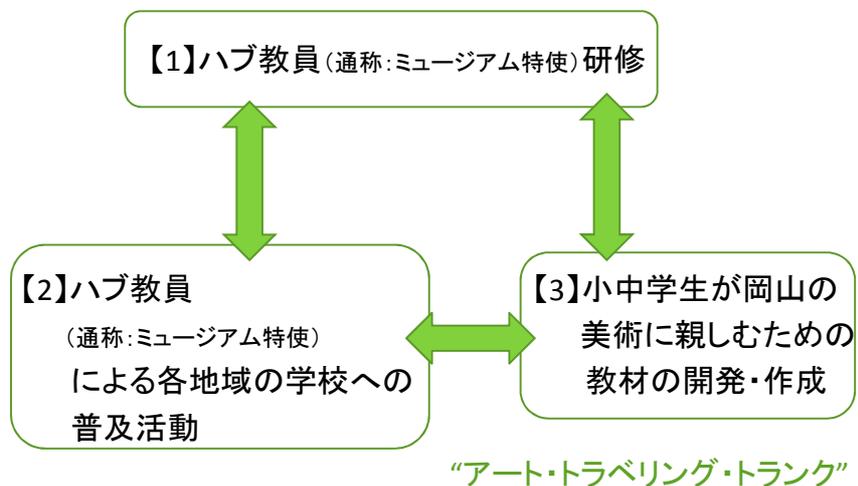
- 岡山の美術を教材とする授業づくりに興味・関心を持つ
- 美術館と学校それぞれの役割について理解を深める
- よりよい連携のあり方を考えながら、教材開発と実践・普及活動を積極的に行う



連携の中軸（ハブ）となる教員  
各地域で拠点校を担う人材

この人材育成を通じて、当館の地域連携強化を図ることを目的としている。

□事業内容



★連携委員会会議・教材開発検討会・関係諸機関との打ち合わせ、委員&ミュージアム特使研修会

(16回開催)

【参加人数:委員長・副委員長・委員・ミュージアム特使 のべ155人】



### ★連携委員会及び教材開発(研修含む)会議

- 6月 6日(日)第1回連携委員会 <県美>  
7月 3日(土)第2回連携委員会&第1回ミュージアム特使会合 <県美>  
7月30日(金)研修&教材開発 <県美>  
8月17日(火)研修&教材開発 <県美>  
10月 2日(土)研修&教材開発 <県美>  
10月30日(土)公開授業&研修&教材開発(水墨画を中心に) <福南中>  
11月14日(日)研修&教材開発 <県美>  
11月27日(土)研修&教材開発(水墨画を中心に) <岡大附中&附小>  
12月14日(火)教材開発打ち合わせ<大原美術館>  
12月19日(日)第3回連携委員会 <県美>  
12月25日(土)研修&教材開発<県美>  
1月4日(火)教材開発打ち合わせ<瀬戸内市立邑久中学校 社会科>  
1月5日(水)教材開発打ち合わせ<岡山市立高島小学校 社会科>  
1月6日(木)教材開発打ち合わせ<岡山県立博物館・備前市教育委員会(生涯学習課)>  
1月19日(水)教材開発打ち合わせ<水墨画&アーティスト・浅見貴子氏>  
1月26日(水)教材開発打ち合わせ<岡山県古代吉備文化財センター>
- ※連携委員会 3回  
※委員&ミュージアム特使研修&教材開発 7回  
※関係諸機関等との教材開発打ち合わせ 6回

## 2. 事業実績

### ★先行事例の調査・研究 11月5日(金)~6日(土)

【参加人数:委員・ミュージアム特使 7人】

11月5日(金)

- 目黒区美術館 11:00~13:00  
「画材と素材の引き出し」について  
降旗千賀子氏による概要説明・質疑応答



- 板橋区立美術館 15:00~17:00  
「日本画教材セット」について  
松岡希代子氏による概要説明・質疑応答



11月6日(土)

- 損保ジャパン東郷青児美術館 10:00~12:00

「学校と美術館の連携(教育委員会・学校・美術館との連携事業)」について  
五十嵐卓氏による概要説明・質疑応答



## ★各地域での公開授業・研修

【委員・ミュージアム特使・各地域の教員 延べ20人】

□10月14日(木) 和気町立日笠小学校 (図画工作科 鑑賞授業)

授業者:岡本 裕子 (岡山県立美術館 主任学芸員)

みるセット「〇×クイズ」「絵札カード」(アート・ゲーム)を使って



□10月30日(土) 岡山市立福南中学校 (参観授業・美術科 鑑賞授業)

授業者:武本 賢治 教諭

水墨画セット「布袋竹雀枯木翡翠図」を使って

□11月18日(木) 和気町立山田小学校

(校内&校区内研修 図画工作科 鑑賞授業)

授業者:岡村 彰紀 教諭

みるセット「〇×クイズ」(アート・ゲーム)を使って



## ★広報を兼ねた他機関との連携事業

【委員・ミュージアム特使・各地域の教員 のべ112人】

<岡山県総合教育センターとの連携>

□8月20日(金)「小中学校図画工作、中・高等学校美術研修講座」

美術館が教室に！教室が美術館に！

～楽しく学べる鑑賞教材を活用した授業づくり～

(岡山県立美術館 岡本裕子 主任学芸員)



□8月26日(木)「中・高等学校美術研修講座」

表現と鑑賞を関連づけた授業の工夫・改善

(岡山大学 赤木里香子 准教授・山口健二 准教授)

<小教研との連携>

□岡山県小学校教育研究会図画工作部会 授業力UP研修 8月11日(水)

□岡山県小学校教育研究会図画工作部会 瀬戸内支部研修 8月25日(水)

□岡山県小学校教育研究会図画工作部大会 分科会 (助言者) 12月3日(金)

(岡山県立美術館 岡本裕子 主任学芸員)

★アート・トラベリング・トランクの作成

- 岡山ゆかりをキーワードにした当館のコレクションの活用
- 鑑賞(みる)と表現(つくる)



鑑賞(みる)ツール編 水墨画編 備前焼編



### 3. 成果 & 現状・・・そして課題

★ハブ教員に対する研修を通して

美術館(学芸員)と学校(教員)の

“美術”や“作品”に対する考え方

“本物”に対する考え方

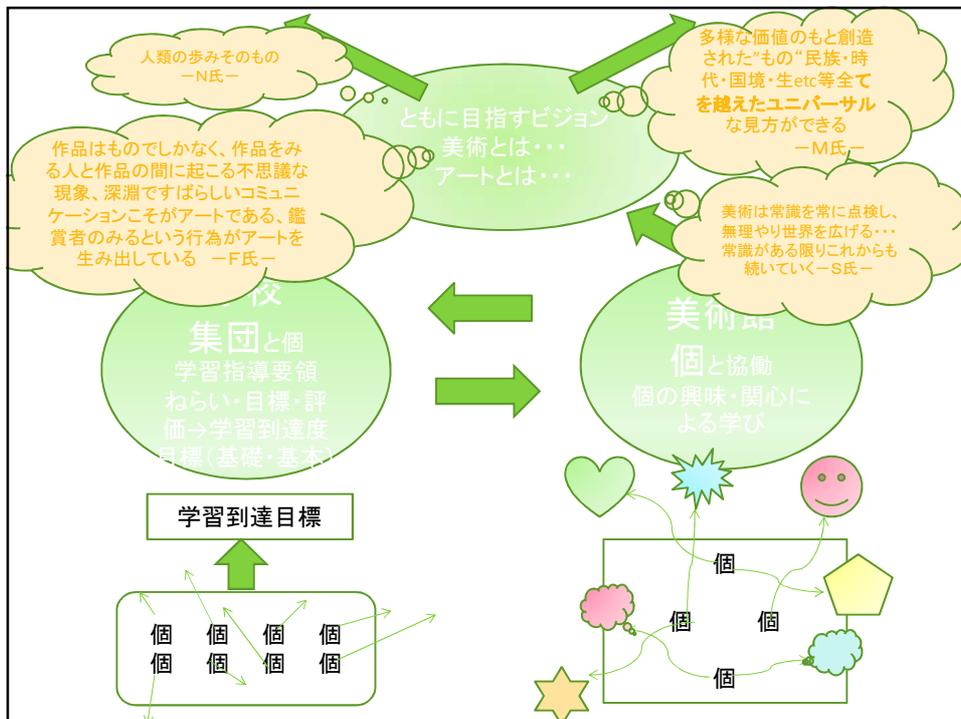
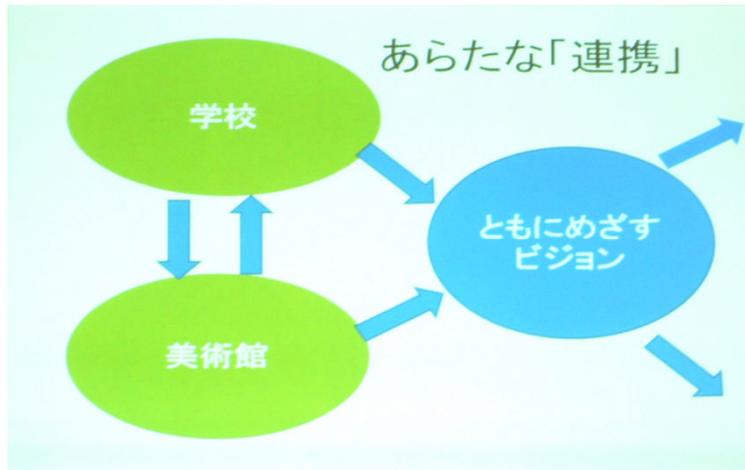
“教育”に対する考え方

の違い



学校と美術館のそれぞれの役割(違い)を認識した上での美術教育のあり方を議論・共通理解する場

学校 ⇄ 美術館から あらたな「連携」へ



★ハブ教員自身による各地域の学校への普及活動を通して

○校内(参観授業の公開、学芸員の出前授業)  
他教科の先生、また管理職、さらに保護者への理解・普及

○校区内(校区内研修会)  
校区における保・幼、小、中の連携へのきっかけ

★小中学生が岡山の美術に親しむための教材開発・作成を通して

○美術館(学芸員)と学校(教員)の  
"美術"や"作品"に対する考え方  
"本物"に対する考え方  
"教育"に対する考え方  
の違い



学校と美術館のそれぞれの役割(違い)を認識した上での美術教育のあり方を議論・共通理解す場

○美術館と学校をつなぐ物的ツール"アート・トラベリング・トランク"  
・美術館 ↔ 図画工作科・美術科の連携



- ★美術館 ↔ 他教科との連携の可能性
- ★美術館 ↔ 他施設の連携の可能性
- ★美術館 ↔ アーティスト ↔ 学校及び児童・生徒
- ★美術館 ↔ ボランティア ↔ 学校及び児童・生徒
- ☆美術館内……キュレーター ↔ エドゥケーター

★事業全体を通して  ネットワークの形成と広がり

- 教育委員会→管轄の壁を越えて
- 校長会→学校への普及(“おもい”を持つ1人の教員が動きやすくなる)
- 教員研究組織→教科への普及(図画工作・美術→社会科)
- 各美術館・博物館→大原美術館、県立博物館、備前市教育委員会  
(生涯学習課)、県古代吉備文化財センター



アーティスト・作家→後進の育成“教育”  
美術館内職員→学芸課(学芸員・エドゥケーター)、総務課、指定管理者  
行政→県の文化振興課・・・縦割り行政から、緩やかに横への連携へ

美術・美術館を使ってできることとは・・・  
社会全体(学校 家庭 地域 社会教育施設 行政・・・)で  
できることとは・・・



“Good Start Museum事業”の展開へ

平成23年度  
**学校と美術館の連携委員会**  
 岡山県緊急雇用創出事業  
 「グッド・スタート・ミュージアム事業」

**Good Start Museum事業**  
 ～美術・美術館とよい出会いを！～

県立美術館と学校との連携事業（グッド・スタート・ミュージアム事業）

